

Check!

脚立・はしごからの転落を防ぎましょう

重篤なけがを負う事故が発生しています。今後の生活への影響も考えて、慎重に判断・行動してください。

❑ 高所作業を避ける方法はありませんか？

剪定であれば造園業者、電球の交換などは身近な若年者に依頼するなど検討してください。

❑ 安定性の高い用具を選択

身体を安定させやすい上枠付きや広いステップのもの、用具の転倒を防ぐ「安定性補助器具」を取付けたものなど、身体と用具の安定を考えて選びましょう。

はしごは移動するための用具なので、はしご上で作業を行ってはいけません。



作業前のチェック

用具

- ❑ 破損や歪みはないか
- ❑ 固定金具をロック

設置場所

- ❑ 平たんで固い地盤
- ❑ 周囲に危険はないか

服装

- ❑ 墜落時保護用ヘルメット
- ❑ 動きやすい服装
- ❑ 滑りにくい靴

その他

- ❑ 体調は万全か
- ❑ 天候は良いか（屋外作業）

❑ 無理のない計画を立て、のぼる前に作業をイメージ

高所作業中に「あと少し」であっても、事前の計画と異なることはせず、のぼってからバランスを取ることに集中しましょう。

ワンポイントアドバイス

身体を支える上枠等がない脚立の場合、天板から少なくとも2段下のステップに立ち、余らせた上部で身体を支えると安定しやすくなります。

※乗ることができるステップは、注意表示や取扱説明書などで確認しましょう。



■ 身を乗り出さない

■ 一人きりで作業しない

転落して身体を打った場合は、自己判断せずに医療機関へ



本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センター公式サイトに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2019年 5月発行

イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険 Number 349

思わぬ大けがに！ 脚立・はしごからの転落

庭木の手入れや荷物の整理などで、脚立やはしごを使用中に転落する事故が発生しています。60～70歳代の事故情報が多く寄せられており、死亡事故のほか、重篤なけがを負った事例がみられました。

加齢に伴う身体機能と認知機能の低下により、バランスをとることなどが難しくなってきます。また、骨折などのけがをきっかけとして介護が必要な状態になるおそれもあります。

今後の生活への影響を考えて、高所作業を避ける方法はないか十分検討し、作業をする場合は用具と身体両方を安定させ、転落に注意して慎重に行ってください。



脚立・はしごからの転落事故 — 高齢者の重篤な 危険が発生しています

医療機関ネットワーク※には脚立・はしごからの転落事故の情報が433件寄せられました。(2010年12月～2019年2月伝送分)
 ※医療機関ネットワーク：消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い 参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもの。

ケース 1

梅を採ろうと脚立の約3mの高さで作業中にコンクリートの地面に転落した。音を聞いた妻が駆けつけたが、呼びかけに反応がなかった。外傷性くも膜下出血、急性硬膜下血腫、頸椎骨折を負った。
 (事故発生年月 2018年5月、70歳代後半・男性、要入院)

ケース 2

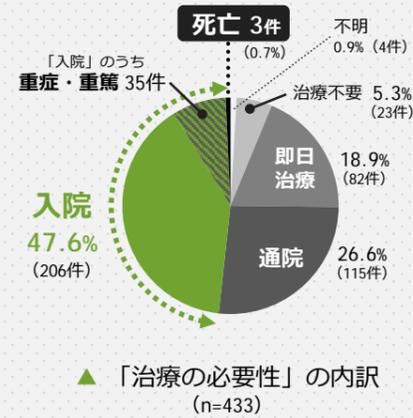
自宅倉庫の高さ約2.5mの中二階にはしごをかけて上っていて、上りきる手前ではしごが倒れ、そのまま転落した。いつもは夫がはしごを支えていたが、一人で上っていた。腎臓の損傷と、肋骨・骨盤・ひじ関節を骨折した。約2週間入院し、その後3カ月間通院した。
 (事故発生年月 2016年7月、60歳代後半・女性、要入院)

ケース 3

庭で剪定作業中にはしごから転落した。うめき声に気付いた近所の人救急要請した。頸椎損傷による完全麻痺があり、脊髄損傷の専門機関へ転院した。
 (事故発生年月 2015年3月、60歳代後半・男性、要入院)

ケース 4

洗面所の電球を交換しようと脚立に上った際に転落し、右足を骨折した。手術とリハビリテーションのため入院した。
 (事故発生年月 2017年3月、70歳代前半・男性、要入院)



死亡事故が発生 約半数が入院治療

転落事故433件のうち、3件が死亡、約半数が入院を要するけがでした。
 脳挫傷や硬膜下血腫などの頭蓋内損傷が49件、脊椎・脊髄の損傷が51件、骨折が約半数の211件でした。大腿骨や骨盤を骨折した事例もみられました。

60-70歳代に多発

60-70歳代が236件で約半数を占めています。90歳代の事故も報告されています。



屋外事故が8割 庭木の作業が最多

事故発生場所がわかる359件のうち、屋外での事故が約8割の282件でした。また、作業内容がわかる243件のうち、約半数が剪定や収穫など庭木の手入れ中の事故でした。

転落時の具体的な作業※ (例)	
1. 剪定や収穫など庭木作業	123件
2. 屋根・軒先での作業	30件
3. 掃除・洗濯	23件
4. 荷物の整理など	16件
5. カーテン・装飾などの取付け	11件
6. 大工仕事・塗装など	10件
7. 電球交換など	8件

※具体的に作業内容の記載がある243件から上位7つを抜粋。

再現 (イメージ) がたつきのある脚立の 天板からの転落



脚立の天板に立つ様子 (脚立の左前が浮いている)



左前への重心移動で 脚立が傾く



転落

※使用した脚立では、天板の上に乗ることや 段差がある場所への設置は禁止されています。

事故防止のため 知っておきたい

脚立・はしごの特徴

正しく設置しても、作業中の動作により バランスを崩すことがあります。

重心位置が高い



ステップが狭く バランスを取り難い



ステップが急で 踏み外しやすい



昇降面の左右に 倒れやすい



事故防止のため 知っておきたい

加齢による影響

身体機能と認知機能の低下がみられます。

バランス能力の低下



身体能力を誤認識



二重課題能力の低下



骨がもろくなる



● この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター 公式ウェブサイトの発表情報「思わぬ大けがに！ 高齢者の脚立・はしごからの転落— 医療機関ネットワークからみる危険の実態 —」で見ることができます。